

<特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」他>

福岡県柳川方言におけるモダリティ, ヴォイスとその周辺, 他動性,
情報構造と名詞述語文, 情報構造の諸要素
'Modality', 'Voice and related expressions', 'Transitivity',
'Information structure and nominal predicate sentences', and 'Markers of information structure'
in the Yanagawa dialect, Fukuoka Japanese

松岡 葵
Aoi Matsuoka

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、『語学研究所論集』所収の各調査票を用いて収集した福岡県柳川方言におけるモダリティ, ヴォイスとその周辺, 他動性, 情報構造と名詞述語文, 情報構造の諸要素のデータを提供することを目的とする。

Abstract: This paper presents data on modality, voice and related phenomena, transitivity, information structure and nominal-predicate constructions, and markers of information structure in the Yanagawa dialect of Fukuoka Prefecture, based on questionnaires published in the *Institute of Language Research*.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001481>

キーワード: 福岡県柳川方言, モダリティ, ヴォイス, 情報構造

Keywords: Yanagawa dialect, Fukuoka Japanese, modality, voice, information structure

1. はじめに

本稿¹は、福岡県柳川方言（以下、柳川方言）におけるモダリティ, ヴォイスとその周辺, 他動性, 情報構造と名詞述語文, 情報構造の諸要素のデータ²を提供することを目的とする。柳川方言は、福岡県柳川市で話されている方言である。九州方言は、東部で話される豊日方言, 北西部で話される肥筑方言, 南部で話される薩隅方言に大別される（上村 1983 : 7-8）。柳川方言は、このうち肥筑方言に属する。柳川方言の文法については、松岡（2021, 2024a）, Matsuoka（2022）をあわせて参照されたい。本稿が示すデータは、柳川方言の母語話者 3 名（1943 年生まれ女性 2 名, 1948 年生まれ男性 1 名）の内省に基づく。話者間で内省に差がある場合は、適宜その差を示す。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deedja>

¹ 本稿で用いるグロスのうち、LGR にないものは以下の通りである。ADD: additive (累加), ADN: adnominal (名詞修飾), ADJZ: adjectivalizer (屈折形容詞語幹化), ADVRS: adversative (逆接), ADVZ: adverbializer (副詞化), ANT: anterior (進展), CNC: concessive (譲歩), CNT: conative (経験), CSL: causal (理由), DEG: degree (程度), DES: desire (願望), ENDO: endocentric (求心), EXO: exocentric (遠心), FMN: formal noun (形式名詞), HAB: habitual (習慣), HON: honorific (尊敬), HOR: hortative (勧誘), HS: hearsay (伝聞), INFR: inferential (推量), INT: intentional (意図), LV: light verb (軽動詞), NPST: non-past (非過去), NINT: non-intentional (非意図), OBL: obligative (義務), PARA: pararell (並列), POL: polite (丁寧), POT: potential (可能), SEQ: sequential (継起), SFP: sentence final particle (終助詞), THM: thematic vowel (語幹拡張母音), VALD: validational: 確信, VLZ: verbalizer (動詞化)

² 本稿は、科研費 JP22KJ2426, JP24KJ1005 の助成を受けている。

2. モダリティ (語研論集第 16 号)

本節では、モダリティについてのデータを提供する。3-1 に示すように、許可は動詞が継起接辞をとった形式と補助形容詞 yo-「よい」によって表される (松岡 2024a: §14.2.1.7)。

3-1 (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。【許可】

moo kaette yokazo.
 moo kaer-te yo-kar-Ø=zo
 もう 帰る-SEQ よい-ADJZ-NPST=SFP
 「もう帰っていいよ。」

禁止は、動詞継起形と補助動詞からなる構造 (松岡 2024a: §14.2.1.6)、もしくは動詞の否定命令形 (松岡 2024a: §15.3.1) によって表される。この構造で用いられる補助動詞は、deke-の否定形、もしくは、nar-の否定形である。前者は「(建物などが) できる、(虫などが) わく」、後者は「(~に) なる」という動詞を語彙的資源とする。両者の意味的な違いは不明である。自然談話においては、deke-を用いる禁止表現が nar-を用いる禁止表現より多く用いられる。

3-2 (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない/それを食べるな。【禁止】

nemattoruken soriba
 nemar-tor-ru sori=ba
 腐れる-PF-NPST=CSL それ=ACC

{ tabete dekenzo / tabete naranzo / tabunna }.
 { tabe-te deke-n=zo / tabe-te nar-a-n=zo / tabu-runna }
 { 食べる-SEQ PERM-NEG=SFP / 食べる-SEQ PERM-THM-NEG=SFP / 食べる-IMP.NEG }
 「腐れているから、それを食べてはいけないよ。」

義務は、動詞が義務接辞-yan (松岡 2024a: §6.4.3) をとったもの、もしくは動詞否定形に条件を表す接続助詞が後続しそれに deke-「良い」が後続したものが表す。

3-3 (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。【義務】

moo {kaerayan / kaeranto deken}.
 moo {kaer-a-yan / kaer-a-n=to deke-n}
 もう {帰る-THM-OBL / 帰る-THM-NEG=COND 良い-NEG}
 「もう帰らないといけない。」

推奨は、動詞過去形 (=形式名詞 hoo) =主格と、形容詞 yo-「良い」が表す。形式名詞 hoo (松岡 2024a: §13.2.1.14) の出現は義務的ではない。

3-4 (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ. 【推奨】

kasa motte itta(hoo)ga yokayo.
 kasa mot-te ik-ta(=hoo)=ga yo-kar-Ø=yo
 傘 もつ-SEQ 行く-PST(=FMN)=NOM 良い-ADJZ-NPST=SFP
 「傘をもっていった方がいいよ。」

3-5 は, 調査の都合により「歳をとったら, 健康に気をつけることだ。」に変更している. 評価的義務は, 動詞が義務接辞-yan をとったもの, もしくは動詞非過去形が形式名詞 kotu (松岡 2024a: §13.2.1.7) をとった構造が表す. 標準語と同様に beki, mono を用いることは可能ではあるものの, 「標準語チック」であるという話者の内省があるために 3-5 には示していない.

3-5 歳をとったら, 健康に気をつけることだ. 【評価的義務】

tosi tottara kenkooni
 tosi tor-tara kenkoo=ni
 歳 とる-COND 健康=DAT

 {kio tukeyanzo / kio tuketokukotu}.
 {ki=o take-yan=zo / ki=o take-tok-ru=kotu}
 {気=ACC つける-OBL=SFP / 気=ACC つける-ANT.PF-NPST=FMN}
 「歳をとったら, 健康に気をつけないといけない。」

希望を表す際には, 動詞が願望接辞-ta をとったもの (松岡 2024a: §8.2.1), もしくは動詞が意志接辞-u をとったものに形式名詞 goto と動詞 ar-「ある」をとった構造 (松岡 2024a: §13.2.1.4) を用いる.

3-6 お腹が空いたので, (私は) 何か食べたい. 【希望】

haran hettaken nanka {tabetaka / tabuugota}.
 hara=n her-ta=ken nan=ka {take-ta-kar-Ø / take-u=goto=ar-ru}
 腹=NOM 減る-PST=CSL 何=INDF {食べる-DES-ADJZ-NPST / 食べる-INT=FMN=ある-NPST}
 「お腹が空いたから, 何か食べたい。」

意志は, 動詞非過去形に終助詞が後続したもの, もしくは動詞が意志接辞をとったものが表す.

3-7 私が持ちましょう. 【意志】

origa {motubai / motooka}.
 ori-Ø=ga {mot-ru=bai / mot-a-u=ka}
 1-SG=NOM {もつ-NPST=SFP / もつ-THM-INT=Q}
 「私のもつよ/もとうか。」

勧誘は, 動詞意志形に勧誘の終助詞=i (松岡 2024a: §10.3.1.12) が後続した構造が表す.

- 3-8 じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。【勧誘】
sonnara issyoni hirumesi tabuui.
sori=nara issyo=ni hiru+mesi tabe-u=i
それ=COND 一緒=DAT 昼+飯 食べる-INT=HOR
「じゃあ一緒に昼ご飯を食べようよ。」

相手の意向が不明な場合の勧誘は、動詞否定形と疑問の終助詞、あるいは勧誘と同様に動詞意志形に勧誘の終助詞=i が後続したものが表す。

- 3-9 一緒に昼ご飯を食べませんか？【相手の意向が不明な場合の勧誘】
issyoni gohan {tabenkan / tabuui}.
issyono=ni gohan {tabe-n=kan / tabe-u=i}
一緒=DAT ご飯 {食べる-NEG=Q / 食べる-INT=HOR}
「一緒にご飯を食べない？／食べようよ。」

他者に対する希望は、動詞非過去形が条件を表す接続助詞（松岡 2024a: §10.2.1.3）をとり、それに形容詞 yo-が後続したもの、動詞継起形に形容詞 hosi-「ほしい」が後続したもの、あるいは動詞継起形に補助動詞 kure-（松岡 2024a: §14.2.1.10）が後続したものが表す。kure-の語彙的資源は、授受動詞 kure-「くれる」である。

- 3-10 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。【希望】
asita yoka tankini {nannara yokabatten /
asita yo-kar-Ø tenki=ni {nar-ru=nara yo-kar-Ø=batten /
明日 良い-ADJZ-NPST 天気=DAT {なる-NPST=COND 良い-ADJZ-NPST=ADVRS /

natte hosikane / natte kurenkane}.
nar-te hosi-kar-Ø=ne / nar-te kure-n=ka=ne}
なる-SEQ ほしい-ADJZ-NPST=SFP / なる-SEQ BEN.ENDO-NEG=Q=SFP}
「明日いい天気に {なったらいいいけど／なってほしいね／なってくれないかな}。」

命令は、動詞が命令接辞をとったもの、もしくは動詞否定形と終助詞=ka, =ne からなる構造が表す（松岡 2024a: §15.3.1）。もっとも強制的な印象を与えるのは動詞が命令接辞をとったものであり、その次に強制的であるのは動詞否定形と終助詞=ka からなる構造、その次が動詞否定形と終助詞=ne からなる構造である。

- 3-11 （私はここで待っているから）すぐにそれを持って来なさい。【命令】
sassato soriba
sassa=to sori=ba
さっさ=QUOT それ=ACC

{totte kee / totte konka / totte konne}.
 {tor-te ko-i / tor-te ko-n=ka / tor-te ko-n=ne}
 {とる-SEQ ENDO-IMP / とる-SEQ ENDO-NEG=Q / とる-SEQ ENDO-NEG=SFP}
 「さっさとそれを {とってこい/とってこい/とってきて}。」

懇願 (依頼) は, 動詞継起形に補助動詞 kure- (松岡 2024a: §14.2.1.10), もしくは haiyoo が後続した構造が表す. 補助動詞 kure-の語彙的資源は授受動詞 kure-「くれる」である. haiyoo も授受を表す haiyoo 「ちょうだい」(例: koohii haiyoo. 「コーヒーちょうだい.」) を語彙的資源とする.

3-12 そのペンをちょっと貸していただけませんか? 【懇願】

son penpa tyotto kasite {kurenkan / haiyoo}.
 son pen=ba tyotto kas-te {kure-n=kan / haiyoo}
 その ペン=ACC ちょっと 貸す-SEQ {BEN.ENDO-NEG=Q / BEN.ENDO}

能力可能は, 可能を表す補助動詞 kir, もしくは動詞非定形と与格, 動詞 nar-からなる構造で表され, 可能接辞-rare を用いることはできない(3-13, 松岡 2024a: §15.8). 状況可能は, 可能接辞-rare が表す(3-14). なお, 3-14 に示す文脈を話者に提示しても, 能力可能を表す kir を用いることも可能ではある. しかし, その場合には, 単に「明かりが暗い」という状況による不可能ではなく, 「他の人なら暗くても読めたかもしれないが, 自身の視力が悪いために読むことができない」といった含意が生じる. すなわち, 状況可能ではなく, 能力可能の文脈となっている.

3-13 あの人は中国語が読めます. / あの人は中国語を読むことができます. 【能力可能】

an hitowa tyuugokugoba
 an hito=wa tyuugokugo=ba
 あの 人=TOP 中国語=ACC

{yomikinnaharu / yomini naru / *yomarenaharu}.
 {yom-i-kir-i-nahar-ru / yom-i=ni nar-ru / yom-rare-nahar-ru}
 {読む-THM-POT-THM-HON-NPST / 読む-THM=DAT なる-NST / 読む-POT-HON-NPST}
 「あの人は中国語を読むことができます。」

3-14 明かりが暗くて, ここに何が書いてあるのか, 読めない. 【状況可能】

kuro site
 kura-u si-te
 暗い-ADVZ LV-SEQ

{yomaren / yomini naran / ?yomikiran}.
 {yom-rare-n / yom-i=ni nar-a-n / yom-i-kir-a-n}
 {読む-POT-NEG / 読む-THM=DAT なる-THM-NEG / 読む-THM-POT-THM-NEG}
 「暗くて, 読めない。」

確信は, matigainasi 「間違いなく」のような確信度が高いことを表す副詞と動詞, あるいは動詞推量

形,あるいは動詞と確信度が高いことを表す形式名詞 *hazu* (松岡 2024a: §13.2.1.6) からなる構造が表す.

3-15 (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ/もう着いたに違いない. 【確信】

an hitotatiwa asa hayakattaken moo

an hito-tati=wa asa haya-kar-ta=ken moo

あの 人-PL=TOP 朝 早い-ADJZ-PST=CSL もう

{maigainasi tuitozze / tuitoroo / tuitoruhazu}.

{matigainasi tuk-tor-ru=ze / tuk-tor-a-u / tuk-tor-ru=hazu}

{間違いなく 着く-PF-NPST=SFP / 着く-PF-THM-INFR / 着く-PF-NPST=VALD}

「あの人たちは朝早かったから, もう {間違いなく着いているよ/着いているだろう/着いているはず}。」

推量のうち, 3-16 のように事態が生じないことを推量する場合には, 動詞否定形にコピュラ推量形が後続したもの, あるいは動詞否定形に推量を表す終助詞=*mee* (松岡 2024a: §10.3.1.9) が後続したものが用いられる. なお, 終助詞=*mee* が出現するのは, 動詞否定形もしくは動詞義務形 (例: *koyan* 「来なければいけない」) に限られる (松岡 2021: 102). 事態が生じることを推量する場合には, 3-15 で見た確信と同様に, 動詞推量形 (例: *ko-yoo* 「来るだろう」) が用いられる.

3-16 (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう. 【推量】

an hitowa {korassanyaroo / korassanmee}.

an hito=wa {ko-rass-a-n=yar-a-u / ko-rass-a-n=mee}

あの 人=TOP {来る-HON-THM-NEG=COP-THM-INFR / 来る-HON-THM-NEG=INFR}

「あの人は来ないだろう。」

3-17 に示すように, 疑念は, 動詞=形式名詞=コピュラ継起形に *na*-「ない」が後続した構造が表す. 3-18 に示す可能性は, 疑念と異なり, 疑問助詞=*ka*, 累加助詞=*mo* に動詞 *sir*-「知る」の否定形あるいは *wakar*-「わかる」の否定形が後続した構造が表す.

3-17 彼らはまだ来ないなんて, きっと途中で車が壊れたんじゃないか. 【疑念】

an hitotatiwa mada korassanno.

an hito-tati=wa mada ko-rass-a-n=no

あの 人-PL=TOP まだ 来る-HON-THM-NEG=SFP

kurumano nedokattazzya nakaka.

kuruma=no nedokar-ta=tu=zya na-kar-Ø=ka

車=NOM 壊れる-PST=FMN=COP.SEQ ない-ADJZ-NPST=Q

「あの人たちは, まだ来ないね. 車が壊れたんじゃないか。」

3-18 (昼間だからあの人は家に) さあ, いるかもしれないし, いないかもしれない. 【可能性】

an hitowa ieni orukamo {wakaran / siran}si
 an hito=wa ie=ni or-ru=ka=mo {wakar-a-n / sir-a-n}=si
 あの 人=TOP 家=DAT いる-NPST=Q=ADD {わかる-THM-NEG / 知る-THM-NEG}=PARA

orankamo {wakaran / siran}.
 or-a-n=ka=mo {wakar-a-n / sir-a-n}
 いる-THM-NEG=Q=ADD {わかる-THM-NEG / 知る-THM-NEG}
 「あの人は家にいるかもしれないしいないかもしれない。」

証拠性について, 視覚/聴覚以外の感覚による判断は形式名詞 goto と動詞 ar-からなるまとまりが(3-19, 松岡 2024a: §13.2.1.4), 伝聞は終助詞=gena が表す(3-20, 松岡 2024a: §10.3.1.6).

3-19 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ. 【視覚/聴覚以外の感覚による判断】

anta netuno {aru / aroo}gotanno.
 anta-Ø netu=no {ar-ru / ar-a-u}=goto=ar-ru=no
 2-SG 熱=NOM {ある-NPST / ある-THM-INFR}=FMN=ある-NPST=SFP
 「あなた, 熱があるみたい。」

3-20 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ. 【伝聞】

asitawa ameno hurugena
 asita=wa ame=no hur-ru=gena
 明日=TOP 雨=NOM 降る-NPST=HS
 「明日は雨が降るって。」

反実仮想は, 時制を問わず, 条件を表す形式(松岡 2024a: §10.2.1.3)を用いて表される.

3-21 もしお金があつたら, あの車を買うんだけどなあ. 【反実仮想】

mosi zen mottorunara an kurumaba kaubatten.
 mosi zen mot-tor-ru=nara an kuruma=ba kaw-ru=batten
 もし お金 もつ-PF-NPST=COND あの 車=ACC 買う-NPST=ADVRS
 「もしお金をもっていたら, あの車を買うんだけど。」

3-22 もしあなたが教えてくれていなかったら, 私はそこにたどり着けなかったでしょう.

【反実仮想過去】

antaga osoekkurennyattanara
 anta-Ø=ga osoe-te kure-n=yar-ta=nara
 2-SG=NOM 教える-SEQ BEN.ENDO-NEG=COP-PST=COND

sokon tukkiranyattayaroo.
 soko=n tuk-i kir-a-n=yar-ta=yar-a-u
 そこ=DAT 着く-THM POT-THM-NEG=COP-PST=COP-THM-INFR
 「あなたが教えてくれなかったら、そこに着けなかつただろう。」

3人称の主体による希望は、1人称の主体による希望(3-6)と異なる形式をとる。3-6で見たように、1人称主体の希望では願望接辞-ta(松岡 2024a: §8.2.1),あるいは動詞意志形に形式名詞 goto, 動詞 ar-が後続する構造が用いられる。前者について、3人称主体による希望も願望接辞-taを用いることはできるが、さらに動詞化接辞-gar(松岡 2024a: §8.1.1)が後続する必要がある。後者について、3人称主体による希望は、1人称主体による希望を表す構造に推量を表す形式名詞 huu(松岡 2024a: §13.2.1.5)が後続する必要がある。

3-23 (あの人は)街へ行きたがっている。【3人称の主体による希望】

an hitowa matsan
 an hito=wa mati=san
 あの 人=TOP 街=ALL

 {ikitagariyuru / ikoogotahuu}.
 {ik-i-ta-gar-i-yor-ru / ik-a-u=gotar-ru=huu}
 {行く-THM-VOL-VLZ-THM-PROG-NPST / 行く-THM-INFR=FMN-NPST=INFR}
 「あの人は街へ行きたがっている。」

「(私に)飲ませろ」、「(彼に)飲ませろ」といった命令は、いずれも使役接辞(松岡 2024a: §15.6.2)と、動詞否定形=終助詞、命令接辞といった命令表現(松岡 2024a: §15.3.1)によって表す。3人称命令は、動詞継起形に補助動詞 moraw-の意志形が後続したものも用いられる。

3-24 僕にもそれを少し飲ませろ。【1人称命令】

tyotto oreni {nomasengan / nomasero}.
 tyotto ore-Ø=ni {nom-sase-n=kan / nom-sase-ro}
 ちょっと 1-SG=DAT {飲む-CAUS-NEG=Q / 飲む-CAUS-IMP}
 「ちょっと私に飲ませろ。」

3-25 これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう。【3人称命令】

koriwa areni motte {ikasakan / ikasero}.
 kori=wa are=ni mot-te {ik-sase-n=kan / ik-sase-ro}
 これ=TOP あれ=DAT もつ-SEQ {EXO-CAUS-NEG=Q / EXO-CAUS-IMP}
 「これはあいつにもっていかせろ。」

koriwa areni mottatte moraoo.
 kori=wa are=ni mot-te ita-te moraw-a-u
 これ=TOP あれ=DAT もつ-SEQ EXO-SEQ BEN.ENDO-THM-INT
 「これはあいつにもっていってもらおう。」

遠未来の命令は, 近未来の命令(3-11)でも用いられる命令形のほか, 動詞非過去形に形式名詞=to (松岡 2024a: §13.2.1.1), 終助詞が後続する形式でも表される³.

3-26 そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。【遠未来の命令】

sono teeburuno okasiwa atode {tabero / tabuttozo}.
 sono teeburu=no okasi=wa ato=de {tabe-ro / tabu-ru=to=zo}
 その テーブル=GEN お菓子=TOP 後=INST {食べる-IMP / 食べる-NPST=FMN=SFP}
 「そのテーブルのお菓子は後で {食べろ/食べるんだよ}。」

反実仮想過去について, 従属節は条件を表す接続助詞=to のように条件を表す形式をとる (3-27). 脱従属化について, 条件を表す形式であっても, 脱従属化の程度には差がある. 条件接辞-tara を用いた条件表現では主節が必須であるのに対し, 条件を表す接続助詞=nara を用いた条件表現では, 主節を伴わない表現も許容される(3-28, 松岡 2024a: §16.5).

3-27 もっと早く来ればよかった。【反実仮想】

hayo kutto yokatta.
 haya-u ku-ru=to yo-kar-ta
 早い-ADVZ 来る-NPST=COND 良い-ADJZ-PST
 「早く来たら良かった。」

3-28 あなたも一緒に行ったら (どうですか) ? 【脱従属化】

anta issyoni itara dogenkan.
 anta-Ø issyo=ni i-tara do-gen=kan
 2-SG 一緒=DAT 行く-COND どう-ADVZ=Q
 「あなたも一緒に行ったらどう？」

anta issyoni ikunara (dogenkan).
 anta-Ø issyo=ni ik-ru=nara do-gen=kan
 2-SG 一緒=DAT 行く-NPST=COND どう-ADVZ=Q
 「あなたも一緒に行ったらどう？」

反語は, 疑問詞を伴わず表すことが可能である.

3-29 オレがそんなこと知るか! 【(疑問詞を含まない) 反語】

senka kotua origa {wakaruka / sitta kotuka}.
 so-gen-kar-Ø kotu=a ori-Ø=ga {wakar-ru=ka / sir-ta kotu=ka}
 そう-ADVZ-ADJZ-NPST こと=TOP 1-SG=NOM {わかる-NPST=Q / 知る-PST FMN=Q}
 「そんなことは私がわかるか。」

³ 遠未来の命令において, 近未来の命令(3-11)で用いられる動詞否定形と終助詞から成る構造 (例: tabenne 「食べたら」) を用いることができるかは未検証である. なお, 若年層柳川方言話者である筆者の内省では, 遠未来の命令において動詞否定形と終助詞から成る構造を用いることはできない.

付加疑問は、推量(3-11)と同様にコンピュータの推量形によって表される。日本語標準語と同様に終助詞の連続によっても表される可能性があるが、未確認である。

3-30 これを作った（料理した）のは、お母さんだよ？／いいえ、私を作ったのよ。【付加疑問】

koriba tukuttatsa kaatyanyaroo.
 kori=ba tukur-ta=tu=a kaatyan=yar-a-u
 これ=ACC 作る-PST=FMN=TOP 母さん=COP-THM-INFR
 「これを作ったのはお母さんでしょう？」

nnya origa tukuttatta.
 nnya ori-Ø=ga tukur-ta=tu=ta
 いいえ 1-SG=NOM 作る-PST=FMN=SFP
 「いや、私を作ったんだよ。」

3. ヴォイスとその周辺（語研論集第 17 号）

本節では、ヴォイスのデータを提供する。自動調と他動詞の対立について、4-1a と 4-1b に示すように、自動調「開く」と他動詞「開ける」は、共通する要素 ak を用いた対を成す⁴。他動詞の受身は、4-1c に示すように、受動接辞-rare を用いて表す。ただし、4-1c の文脈において受身文を用いると「開けてほしくなかったのに開けられた」という被害の意味が生じるため、これを避けるためには cf に示す能動文が用いられる。自動詞「壊れる」を表す動詞には、標準語と同形の koware-「壊れる」のほか、nedokar-「壊れる」がある。それぞれの自動詞に対応する他動詞は、kowas-「壊す」、nedokas-「壊す」であり、自動詞と共通する要素をもつ。

4-1a （風などで）ドアが開いた。【自動調と他動詞の対立・自動詞】

tono {aita / akatta}.
 to=no {ak-ta / akar-ta}
 戸=NOM {開く-PST / 開く-PST}
 「戸が開いた。」

4-1b （彼が）ドアを開けた。【自動調と他動詞の対立・他動詞】

toba aketa.
 to=ba ake-ta
 戸=ACC 開ける-PST
 「戸を開けた。」

4-1c （入り口の）ドアが開けられた。【自動調と他動詞の対立・他動詞の受身】

tono akerareta.
 to=no ake-rare-ta
 戸=NOM 開ける-PASS-PST
 「（開けてほしくなかったのに）戸が開けられた。」

⁴ 柳川方言における動詞の自他交替については、松岡（2024a: § 15.6.2.2）を参照されたい。

cf. dareka toba akesasita.
 dare=ka to=ba ake-sass-ta
 誰=INDF 戸=ACC 開ける-HON-PST
 「誰かが戸を開けた。」

4-1d ドアが壊れた。【自動調と他動詞の対立】
 tono {kowareta / nedokatta}.
 to=no {koware-ta / nedokar-ta}
 戸=NOM {壊れる-PST / 壊れる-PST}
 「戸が壊れた。」

使役は、使役接辞-sase を用いて表す。使役態の格標示について、自動詞からの使役(4-2)では被使役者は与格標示もしくは対格標示され、他動詞からの使役(4-3)では被使役者は与格標示のみを許容する。自動詞からの使役において被使役者が与格標示されるか対格標示されるかにはその使役が強制的であるか否かが影響する。4-4 で見るように、強制の場合には被使役者は対格標示のみを許容し、許可を与えるような文脈では、被使役者は対格標示と与格標示の両方を許容する (松岡 2024a: §15.6.2)。

4-2 私は（自分の）弟を立たせた。【自動詞からの使役】
 ootoo{ni/ba} tataseta.
 ootoo={ni/ba} tat-sase-ta
 弟={DAT/ACC} 立つ-CAUS-PST
 「弟を立たせた。」

4-3 私は（自分の）弟に歌を歌わせた。【他動詞からの使役】
 ootoo{ni/*ba} utaba utawaseta.
 ootoo={ni/ba} uta=ba utaw-sase-ta
 弟={DAT/ACC} 歌=ACC 歌う-CAUS-PST
 「弟に歌を歌わせた。」

前述したように、自動詞の使役化においては強制使役と許可使役の差が被使役者の格標示に現れる。4-4a⁵のような強制使役では被使役者は対格標示のみを許容する一方で、4-4b のような許可使役では被使役者は与格標示と対格標示の両方を許容する。なお、4-4a, b において、動詞は ik-「行く」が使役接辞をとったものだけでなく、yar-「(誰かをどこかに)やる、行かせる」も用いられる。yar-を用いる場合には、「行く」という動作をおこなう主体は、強制か許可かにかかわらず対格標示される (kodonba asobige yatta. 「子どもを遊びに行かせた。」)。

⁵ 4-4a の例文「母は子供にパンを買いに行かせた。」については、調査例文を大きく変更している。これは、強制使役と許可使役の違いが格標示に与える影響を見るためである。柳川方言において、「買いに」のような目的は、目的接辞-ge によって表される。-ge をとった動詞は、後続する移動動詞とまとまり、全体 (例: kaige iku 「買いに行く」) で項を要求するという特徴をもつ (松岡 2024a: 395-396)。-ge をとった動詞が他動詞である場合には、後続する移動動詞とまとまり、全体で他動詞としてふるまう。-ge をとった動詞が自動詞である場合には、後続する移動動詞とまとまり、全体で自動詞としてふるまう。4-3 に示したように他動詞を使役化した場合には被使役者の格標示に強制・許可の違いが観察されない。4-4a, b の例文では、強制使役か許可使役かの違いが被使役者の格標示に与える影響を見るため、調査例文を自動詞としてふるまう「学校に行かせる」に変更している。

4-4a (遊びたがっている子供に無理やり) 母は子供を学校に行かせた。【強制使役】
 okkanna syatti kodon{*ni/ba} gakkoosan {ikaseta / yatta}.
 okkan-Ø=wa syatti kodon={ni/ba} gakkoo=san {ik-sase-ta / yar-ta}
 お母さん-SG=TOP 無理に 子ども={DAT/ACC} 学校=ALL {行く-CAUS-PST / 行かせる-PST}
 「お母さんは無理に子どもを学校に行かせた。」

4-4b (遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた。【許可使役】
 okkanna kodon{ni/ba} gakkoosan ikaseta.
 okkan-Ø=wa kodon={ni/ba} gakkoo=san ik-sase-ta
 お母さん-SG=TOP 子ども={DAT/ACC} 学校=ALL 行く-CAUS-PST
 「お母さんは子どもを学校に行かせた。」

okkanna kodon{*ni/ba} gakkoosan yatta.
 okkan-Ø=wa kodon={ni/ba} gakkoo=san yar-ta
 お母さん-SG=TOP 子ども={DAT/ACC} 学校=ALL 行かせる-PST
 「お母さんは子どもを学校に行かせた。」

4-5a, b について、「着せる」を表す場合と「着させる」を表す場合では、標準語と同様に動詞の形式が異なる。

4-5a 私は弟に服を着せた。【直接の行為】
 ootooni hukuba {kiseta / *kisaseta}.
 ootoo=ni huku=ba {kise-ta / ki-sase-ta}
 弟=DAT 服=ACC {着せる-PST / 着る-CAUS-PST}
 「弟に服を着せた。」

4-5b 私は弟にその服を着させた。【間接の行為】
 ootooni hukuba {kisaseta / *kiseta}.
 ootoo=ni huku=ba {ki-sase-ta / kise-ta}
 弟=DAT 服=ACC {着る-CAUS-PST / 着せる-PST}
 「弟に服を着させた。」

授受動詞は、表 1 に示すように、主語が与え手か受け手か、物の移動が遠心方向か求心方向かによって使い分けられる(松岡 2024a: §14.2.1.10-14.2.1.11)。表 1 に示した形式のうち、主語が受け手、移動の方向性が遠心である場合(例:「太郎は私から本をもらった。」)に moraw-の形式を用いることができるのは確かであるものの、主語を与え手にした構造(例:「私は太郎に本をあげた。」)の方が選好される。恩恵の授受については、表 1 に示した授受動詞の補助動詞用法が表す。ただし、諸形式の張り合い関係は、一部で本動詞用法の場合と異なっている。具体的には、授受動詞の例(4-6)には主語が与え手、移動の方向性が遠心の場合(表 1 の左上)に用いられた kure-が、補助動詞の場合には用いられない⁶。

⁶ 日本語諸方言における同様の非対称性については、日高(2006: 194-196)を参照されたい。

表 1. 授受動詞の使い分け

		移動の方向性	
		遠心	求心
主語	与え手	kure-/ yar- (4-6)	kure-
	受け手	moraw-	

4-6 私は弟にその本をあげた。【やりもらい、遠心方向】

origa ootooni hon {kureta / yatta}.
 ori-Ø=ga ootoo=ni hon {kure-ta / yar-ta}
 1-SG=GEN 弟=DAT 本 {あげる-PST / あげる-PST}
 「私は弟に本をあげた。」

4-7a 私は弟に本を読んであげた。【やりもらい、遠心方向】

origa ootooni honba yonde {*kureta / yatta}.
 ori-Ø=ga ootoo=ni hon=ba yom-te {kure-ta / yar-ta}
 1-SG=GEN 弟=DAT 本=ACC 読む-SEQ {BEN.ENDO-PST / BEN.EXO-PST}
 「私は弟に本を読んであげた。」

4-7b 兄は私に本を読んでくれた。【やりもらい、求心方向】

niityanga orini honba yonde {kureta / *yatta}.
 niityan=ga ori-Ø=ni hon=ba yom-te {kure-ta / yar-ta}
 お兄ちゃん=NOM 1-SG=DAT 本=ACC 読む-SEQ {BEN.ENDO-PST / BEN.EXO-PST}
 「お兄ちゃんが私に本を読んでくれた。」

4-7c 私は母に髪を切ってもらった。【テモラウ】

okaasan{ni/kara} kamiba tumaete morota.
 okaasan-Ø={ni/kara} kami=ba tumae-te moraw-ta
 お母さん-SG={DAT/ABL} 髪=ACC 切る-SEQ BEN.ENDO-PST
 「お母さんに髪を切ってもらった。」

身体部位を洗うという再帰的な動作は、再帰的でない動作を表す際にも用いる他動詞 aruw-「洗う」によって表す。身体部位について、身体全体に対しての行為(4-8a)である場合は、再帰代名詞 waga「自分の」(松岡 2024a: §5.1.2), karada「体」を目的語としてとる。再帰代名詞は必須ではない。身体部位に対しての行為である場合(4-8b, c)には、その身体部位を目的語としてとる。なお、少なくともその身体部位が te「手」である場合には、再帰代名詞 waga「自分の」を身体部位の前に用いるのはやや不自然であるという話者の内省がある。

4-8a 私は(自分の)体を洗った。【再帰、身体全体に対しての行為】

oriwa (waga) karadaba aruta.
 ori-Ø=wa (waga) karada=ba aruw-ta
 1-SG=TOP (自分) 体=ACC 洗う-PST
 「私は自分の体を洗った。」

4-8b 私は手を洗った。【再帰, 身体部位に対しての行為】

oriwa teba aruta.
ori-Ø=wa te=ba aruw-ta
1-SG=TOP 手=ACC 洗う-PST
「私は手を洗った。」

4-8c 彼は手を洗った。【再帰, 身体部位に対しての行為】

an hitowa teba aruwasita.
an hito=wa te=ba aruw-sass-ta
あの 人=TOP 手=ACC 洗う-HON-PST
「あの人は手を洗った。」

自利態について, これを表す文法的な要素はない。自分の利益になるという事態は, 再帰代名詞と形式名詞 *tame* を用いて表す。

4-9 (自分のために) 私はその本を買った。【自利態】

(waga tameni) sono honba koota.
(waga tame=ni) sono hon=ba kaw-ta
(自分 ため=DAT) その 本=ACC 買う-PST
「自分のためにその本を買った。」

相互態は, *aw-*「(〜し) あう」が複合動詞の後部要素となること (松岡 2024a: §15.6.4), あるいは名詞化接辞-*gutyto*「〜しあい」をとることで表す。相互態の節において, 動作主体を表す名詞句が一つである場合は, その名詞句は主格で標示される。動作主体を表す名詞句が二つある場合は, 一つめの名詞句は共格で, 二つめの名詞句は共格, 主格, 共格と主格の連続のいずれかで標示される (松岡 2024a: §15.6.4)。

4-10 彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた。【相互態】

addomyaa {naguriiyotta / nagurigutyto siyotta}.
ari-domo=wa {nagur-i+aw-i-yor-ta / nagur-i-gutyto si-yor-ta}
あれ-PL=TOP {殴る-THM+REC-PROG-PST / 殴る-THM-NMLZ LV-PROG-PST}
「あの人たちは殴り合っていた。」

cf. A と B が殴り合っていた。

eeto {biito / biiga / biitoga} naguriiyotta.
ee=to {bii=to / bii=ga / bii=to=ga} nagur-i-aw-i-yor-ta
A=COM {B=COM / B=NOM / B=COM=NOM} 殴る-THM-REC-THM-PROG-PST
「A と B が殴り合っていた。」

衆動を表す文法形式はない。sootee「みんな」のような副詞, あるいは *tunnaw-*「連れる, 連れ立つ」のような動詞の継起形を用いて, 集団全体による動作であることを表す。

- 4-11 その人たちは (みんな一緒に) 街へ行った. 【衆動】
 addomyaa {sootee / tunnoote} yanagawasan ita.
 ari-domo=wa {sootee / tunnaw-te} yanagawa=san i-ta
 あれ-PL=TOP {みんな / 連れ立つ-SEQ} 柳川=ALL 行く-PST
 「あの人たちは {みんな/連れ立って} 柳川へ行った。」

「泣ける」のような表現については, nak-「泣く」という動詞語根に使役接辞-sase が後続した形式が表す.

- 4-12 その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう). 【自発】
 ano eegawa nakasuru.
 ano eega=wa nak-sasu-ru
 あの 映画=TOP 泣く-CAUS-NPST
 「あの映画は泣かせる。」

意志/無意志の対立については, 副詞あるいは動詞接頭辞で表す. 副詞について, 意図的である場合には wazato「わざと」, 非意図的である場合には ukkari「うっかり」といった副詞が用いられる. 非意図的である場合には, 動詞接頭辞 tii-を用いることもできる⁷.

- 4-13a 私は卵を割った.
 oryaa tamagoba watta.
 ori-Ø=wa tamago=ba war-ta
 1-SG=TOP 卵=ACC 割る=PST
 「私は卵を割った。」

- 4-13b (うっかり落として) 私はコップを割った/割ってしまった. 【無意志】
 orya ukkari site koppuba tiiwatta.
 ori-Ø=wa ukkari si-te koppu=ba tii-war-ta
 1-SG=TOP うっかり LV-SEQ コップ=ACC NINT-割る-PST
 「私はうっかりして, コップを割ってしまった。」

- 4-13c 私はコップを (故意に) 割った. 【意志】
 oryaa koppuba wazato watta.
 ori-Ø=wa koppu=ba wazato war-ta
 1-SG=TOP コップ=ACC わざと 割る-PST
 「私はコップをわざと割った。」

可能表現は, 概して状況可能に用いられる-rare と, 概して能力可能に用いられる kir で表される (松岡 2024a: §15.8). 随意の不可能と不随意の不可能については, いずれも-rare によって (不) 可能であることを表す. なお, 4-14a のような状況については, ne-「寝る」が可能接辞-rare をとった形式でも表さ

⁷ 接頭辞 tii-は佐賀県方言にも見られ, 副詞「つい」に由来するとされる (井上 1988: 70).

れるが, neer-「寝入る」という動詞によっても表される.

4-14a きのうち私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった. 【随意の不可能】

koohiiba nomisugitaken {neeranyatta /
 koohii=ba nom-i+sugi-ta=ken {neer-a-n=yar-ta /
 コーヒー=ACC 飲む-THM+過ぎる-PST=CSL {寝入る-THM-NEG=COP-PST /

nerarenyatta}.

ne-rare-n=yar-ta}

寝る-POT-NEG=COP-PST}

「コーヒーを飲みすぎたので, {寝つけなかった/寝られなかった}。」

4-14b きのうち私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった. 【不随意の不可能】

sigotono sabakenyattaken nerarenyatta.
 sigoto=no sabake-n=yar-ta=ken ne-rare-n=yar-ta
 仕事=NOM パツパとやる-NEG=COP-PST=CSL 寝る-POT-NEG=COP-PST

「仕事ははかどらなくて, 寝られなかった。」

全体と部分の関係について, 二重主語文が恒常性を問わず用いられる. 4-16のように恒常的である場合には, 形容詞と名詞, 軽動詞からなる構文も用いられる. ただし, 形容詞と名詞, 軽動詞からなる構文がどのような環境で用いられるかの詳細は不明である.

4-15 私は頭が痛い. 【全体と部分・主体・一時的】

oryaa ataman itaka.
 ori-Ø=wa atama=n ita-kar-Ø
 1-SG=TOP 頭=NOM 痛い-ADJZ-NPST

「私は頭が痛い。」

4-16 彼女は髪が長い. 【全体と部分・主体・恒常的】

an hitowa kamino nanka.
 an hito=wa kami=no naga-kar-Ø
 あの 人=TOP 髪=NOM 長い-ADJZ-NPST

「あの人は髪が長い。」

an hitowa nanka kamiba sitoru.
 an hito=wa naga-kar-Ø kami=ba si-tor-ru
 あの 人=TOP 長い-ADJZ-NPST 髪=ACC LV-PF-NPST

「あの人は長い髪をしている。」

他者の身体部位への動作は, 所有者と属格, 所有物からなる名詞句を項として表す.

4-17a 彼は(別の)彼の肩をたたいた。【全体と部分・対象・接触／結果状態が瞬間的】

taroowa ziroono kataba tateta.
 taroo=wa ziroo=no kata=ba tatak-ta
 太郎=TOP 次郎=GEN 肩=ACC 叩く-PST
 「太郎は次郎の肩を叩いた。」

4-17b 彼は(別の)彼の腕をつかんだ。【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

taroowa ziroono udeba tukameeta.
 taroo=wa ziroo=no ude=ba tukamee-ta
 太郎=TOP 次郎=GEN 腕=ACC つかむ-PST
 「太郎は次郎の腕をつかんだ。」

知覚構文の知覚内容は連体節と形式名詞で表される。知覚者と知覚対象の格標示について、知覚者は主格(松岡 2024a: §13.3.1), 知覚対象は対格(松岡 2024a: §13.3.2)で標示される。

4-18a 私は彼がやって来るのを見た。【知覚構文】

oryaa tarooga kiyottoba mita.
 ori-Ø=wa taroo-Ø=ga ki-yor-ru=to=ba mi-ta
 1-SG=TOP 太郎-SG=NOM 来る-PROG-NPST=FMN=ACC 見る-PST
 「私は太郎が来ている(来つつある)のを見た。」

4-18b 私は彼が今日来ることを知っている。【知覚構文】

oryaa tarooga kuttoba sittoru.
 ori-Ø=wa taroo-Ø=ga ku-ru=to=ba sir-tor-ru
 1-SG=TOP 太郎-SG=NOM 来る-NPST=FMN=ACC 知る-PF-NPST
 「私は太郎が来るのを知っている。」

引用文中の再帰は、再帰代名詞(松岡 2024a: §5.1.2)で表される。このとき、再帰代名詞は主格をとるが、再帰代名詞 waga については、これに主格助詞、属格助詞が後続できないという制限がある(松岡 2024a: 103)ため、主格助詞を伴わず現れる。

4-19 彼は自分(のほう)が勝つと思った。【引用文中の再帰】

taroowa {waga / zibunga} katuti omota.
 taroo-Ø=wa {waga / zibun=ga} kat-ru=ti omow-ta
 太郎-SG=TOP {REFL / REFL=NOM} 勝つ-NPST=QUOT 思う-PST
 「太郎は自分が勝つと思った。」

動作が対象の部分に及ぶか全体に及ぶかは、副詞によって表される。

4-20a 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。【部分的に及ぶ動作】

oryaa tyotto otya nooda.
ori-Ø=wa tyotto o-tya nom-ta
1-SG=TOP ちょっと POL-茶 飲む-PST
「私はちょっとお茶を飲んだ。」

4-20b 私は（コップの）水を全部飲んだ。【全体に及ぶ動作】

oryaa otya sootee nooda.
ori-Ø=wa o-tya sootee nom-ta
1-SG=TOP POL-茶 全部 飲む-PST
「私はお茶を全部飲んだ。」

否定文について、否定は否定接辞-nによって表される。恒常的か否かは、否定接辞の形式には影響を与えない。

4-21 彼は肉を食べない。【恒常的な否定文】

taroowa nikuba kuwanmon.
taroo=wa niku=ba kuw-a-n=mon
太郎=TOP 肉=ACC 食べる-THM-NEG=SFP
「太郎は肉を食べない。」

「寒い」を表す語を述語とする文について、感覚主体の存在が感じられない文(4-22a)では, samu-「寒い」を述語とする形容詞文をとる。感覚主体の存在がある文について、(4-22b)では感覚主体が主題標示されているが、連体節に埋め込んだ場合には主格標示される。「驚く」を表す語を述語とする文について、(4-23)では感覚主体は主題標示されているが、連体節に埋め込んだ場合には主格標示される。刺激について、連体節と形式名詞から成る構造か、「人が多かったから」、「人が多くて」に相当する従属節で表される（松岡 2024a: §10.2.1.1）。連体節が形式名詞をとった構造は、与格標示される。

4-22a 今日は寒い。【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない、より客観的な表現】

kyoowa samuka.
kyoo=wa samu-kar-Ø
今日=TOP 寒い-ADJZ-NPST
「今日は寒い。」

4-22b 私は（何だか）寒い。【感覚述語・非人称文／斜格主語】

oryaa samuka.
ori-Ø=wa samu-kar-Ø
1-SG=TOP 寒い-ADJZ-NPST
「私は寒い。」

4-23 人がとても多かったことに私は驚いた。【感覚述語・非人称文／斜格主語】

hiton {ookattatuni / ookattaken / oo site}
 hito=n {oo-kar-ta=tu=ni / oo-kar-ta=ken / oo-u si-te}
 人==NOM {多い-ADJZ-PST=FMN=DAT / 多い-ADJZ-PST=CSL / 多い-ADVZ LV-SEQ}

bikkuri sita.

bikkuri si-ta

びっくり LV-PST

「人が {多かったことに／多かったから／多くて} びっくりした。」

「雨が降り始めた」という意味を表す現象文においては、ame「雨」という名詞が主格標示されて現れる。

4-24 雨が降り始めた。【現象文・現場での直接体験】

ameno hurideeta.

ame=no hur-i+das-ta

雨=NOM 降る-THM+はじめる-PST

「雨が降り出した。」

「この本は良く売れる」という意味を表す文については、kono hon「この本」が主語となり、自動詞ure-「売れる」が述語となる。

4-25 この本は良く売れる。【中間構文】

kono honna yoo ururu.

kono hon=wa yo-u uru-ru

この 本=TOP 良い-ADVZ 売れる-NPST

「この本は良く売れる。」

4. 他動性（語研論集第19号）

直接影響を表す文(6-1a~6-1c)では、主語が主格、目的語が対格で標示される。調査票の6-1dにある「殺したが死ななかつた」のような表現は容認されない。

6-1a 彼はそのハエを殺した。【直接影響・変化】

an hitoga son heeba koreta.

an hito=ga son hee=ba koros-ta

あの 人=NOM その ハエ=ACC 殺す-PST

「あの人とそのハエを殺した。」

6-1b 彼はその箱を壊した。【直接影響・変化】

an hitoga son hakoba nedokeeta.

an hito=ga son hako=ba nedokas-ta

あの 人=NOM その 箱=ACC 壊す-PST

「あの人がその箱を壊した。」

6-1c 彼はそのスープを温めた。【直接影響・変化】

an hitoga son misorisuba nukumeta.

an hito=ga son misosiru=ba nukume-ta

あの 人=NOM その 味噌汁=ACC 温める-PST

「あの人がその味噌汁を温めた。」

対象が無変化であることを動詞のうち、「蹴る」については、対象に変化を及ぼす場合と同じく対格標示される(6-2a, b)。「ぶつかる」については、意図性にかかわらず与格もしくは共格で標示される。

6-2a 彼はそのボールを蹴った。【直接影響・無変化】

an hitowa son booruba ketta.

an hito=wa son booru=ba ker-ta

あの 人=TOP その ボール=ACC 蹴る-PST

「あの人はそのボールを蹴った。」

6-2b 彼女は彼の足を蹴った。【直接影響・無変化】

an hitowa soriga asiba ketta.

an hito=wa sori=ga asi=ba ker-ta

あの 人=TOP それ=NOM 足=ACC 蹴る-PST

「あの人はそいつの足を蹴った。」

6-2c 彼はその人にぶつかった(故意に)。【直接影響・無変化】

an hitowa son hito{ni/to} wazato butukatta.

an hito=wa son hito={ni/to} wazato butukar-ta

あの 人=TOP その 人={DAT/COM} わざと ぶつかる-PST

「あの人はその人にわざとぶつかった。」

6-2d 彼はその人にぶつかった(うっかり)。【直接影響・無変化】

an hitowa son hito{ni/to} ukkari butukatta.

an hito=wa son hito={ni/to} ukkari butukar-ta

あの 人=TOP その 人={DAT/COM} うっかり ぶつかる-PST

「あの人はその人にうっかりぶつかった。」

二項述語階層 2A に分類される動詞「見える」、「聞こえる」においては、対象が主格標示される。2B に分類される動詞「見る」、「聞く」については、対象が対格標示される。主語の人称は格標示に影響しない。

6-3a あそこに人が数人見える. 【知覚 2A】

attin nikini nanninka orasutoga miyuru.
 atti=n niki=ni nan-nin=ka or-rass-ru=to=ga miyu-ru
 あっち=GEN あたり=DAT 何-CLF=INDF いる-HON-NPST=FMN=NOM 見える-NPST
 「あっちのあたりに何人かいるの見える。」

6-3b 私はその家を見た. 【知覚 2B】

oriwa ano ieba mita.
 ori-Ø=wa ano ie=ba mi-ta
 1-SG=TOP あの 家=ACC 見る-PST
 「私はあの家を見た。」

6-3c 誰かが叫んだのが聞こえた. 【知覚 2A】

dareka orodatuno kikoeta.
 dare=ka orab-ta=tu=no kikoe-ta
 誰=INDF 叫ぶ-PST=FMN=NOM 聞こえる-PST
 「誰かが叫んだのが聞こえた。」

6-3d 彼はその音を聞いた. 【知覚 2B】

an hitowa sono otoba kiita.
 an hito=wa sono oto=ba kik-ta
 あの 人=TOP その 音=ACC 聞く-PST
 「あの人はその音を聞いた。」

発見・獲得・生産の対象(6-4a, b), 追求の対象(6-5a, b, c)についても, 対格で標示される.

6-4a 彼は(なくした)カギを見つけた. 【発見・獲得・生産】

taroowa kagiba mituketa.
 taroo-Ø=wa kagi=ba mituke-ta
 太郎-SG=TOP 鍵=ACC 見つける-PST
 「太郎は鍵を見つけた。」

6-4b 彼は椅子を作った. 【発見・獲得・生産】

taroowa isuba tukutta.
 taroo-Ø=wa isu=ba tukur-ta
 太郎-SG=TOP 椅子=ACC 作る-PST
 「太郎は椅子を作った。」

6-5a 彼はバスを待っている。【追及】

taroo_{wa} basuba matiyoru.
 taroo-∅=wa basu=ba mat-i-yor-ru
 太郎-SG=TOP バス=ACC 待つ-THM-PROG-NPST
 「太郎はバスを待っている。」

6-5b 私は彼が来るのを待っていた。【追及】

oryaa zirooga kuttoba mattotta.
 ori-∅=wa ziroo-∅=ga ku-ru=to=ba mat-tor-ta
 1-SG=TOP 次郎-SG=NOM 来る-NPST=FMN=ACC 待つ-PF-PST
 「私は次郎が来るのを待っていた。」

6-5c 彼は財布を探している。【追及】

taroo_{wa} saihuba sagasiyuru.
 taroo-∅=wa saihu=ba sagas-i-yor-ru
 太郎-SG=TOP 財布=ACC 探す-THM-PROG-NPST
 「太郎は財布を探している。」

知識を表す動詞のうち、「知る」は対象が対格標示される。「できる」という意味については、動詞と可能を表す補助動詞-kir (松岡 2024a: §14.2.1.12) を用いて表す (例: hanasikuru 「話せる」)。この構造を用いる場合も、対象は対格標示される。

6-6a 彼はいろんなことをよく知っている。【知識 1】

taroo_{wa} ironna kotuba yoo sittoru.
 taroo-∅=wa ironna kotu=ba yo-u sir-tor-ru
 太郎-SG=TOP いろんな FMN=ACC 良い-ADV LZ 知る-PF-NPST
 「太郎はいろんなことをよく知っている。」

6-6b 私はあの人を知っている。【知識 1】

oryaa an hitoba sittoru.
 ori-∅=wa an hito=ba sir-tor-ru
 1-SG=TOP あの 人=ACC 知る-PF-NPST
 「私はあの人を知っている。」

6-6c 彼はロシア語ができる。【知識 1】

aryaa tyuugoggoba hanasikuru.
 ari-∅=wa tyuugoggo=ba hanas-i-kir-ru
 あれ-SG=TOP 中国語=ACC 話す-THM-POT-NPST
 「あいつは中国語を話せる。」

知識を表す動詞のうち、「覚えている」、「忘れる」を表す動詞についても、対象は対格標示される。

6-7a あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか? 【知識 2】

antawa origa kinoo yuuta kotuba oboetonne.
 anta-Ø=wa ori-Ø=ga kinoo yuw-ta kotu=ba oboe-tor-ru=ne
 2-SG=TOP 1-SG=NOM きのう 言う-PST こと=ACC 覚える-PF-NPST=SFP
 「あなたは私がきのう行ったことを覚えている?」

6-7b 私は彼の電話番号を忘れてしまった. 【知識 2】

oryaa saburoon denwabangooba wasuressimota.
 ori-Ø=wa saburoo-Ø=n denwa+bango=ba wasure-te simaw-ta
 1-SG=TOP 三郎-SG=GEN 電話+番号=ACC 忘れる-SEQ PF-PST
 「私は三郎の電話番号を忘れてしまった。」

好悪の感情を表す表現は, suk-「好く」という動詞の肯定形, 否定形, もしくは suki「好き」, kirai「嫌い」という非屈折形容詞が表す. 対象の格標示には, 述語の品詞および対象の有生性が関与する. 6-8aのように述語の品詞が動詞であり, 対象が有生物である場合には, 対象は対格標示のみを許容する. cfに示すように, 対象が無生物である場合には, 対格標示のほか主格標示も許容する. なお, 6-8aにおいては, aisu-「愛する」という動詞も用いることが可能ではあるが, 話者の内省では標準語的な印象であるという. 6-8bのように, 対象が無生物であり, 述語が suki である場合には, 対象は主格標示と対格標示を許容する. 対象が無生物である場合には述語の品詞は格標示に影響を与えず, 6-8のcfに示したように述語の品詞が動詞であっても対象は主格あるいは対格で標示される. 6-8cのように, 述語が sukan である場合には, 対象は対格標示のみを許容する.

6-8a 母は子供たちを深く愛していた. 【感情 1】

kaatyanna kodontati{ba/*ni/*ga} basaro suitorasita
 kaatyan-Ø=wa kodon-tati={ba/ni/ga} basara-u suk-tor-rass-ta
 お母さん-SG=TOP 子ども-PL={ACC/DAT/NOM} すごい-ADVZ 好く-PF-HON-PST
 「お母さんは子どもたちをととても大事に思っていた。」

cf. watsiwa banana{ga/ba/*ni} suitoru.
 watsi-Ø=wa banana={ga/ba/ni} suk-tor-ru
 1-SG=TOP バナナ={NOM/ACC/DAT} 好く-PF-NPST
 「私はバナナが好きだ。」

6-8b 私はバナナが好きだ. 【感情 1】

watsiwa banana{ga/ba/*ni} suki.
 watsi-Ø=wa banana={ga/ba/ni} suki
 1-SG=TOP バナナ={NOM/ACC/DAT} 好き
 「私はバナナが好きだ。」

6-8c 私はあの人が嫌いだ。【感情 1】
 oryaa an hito{*ga/ba/*ni} sukan.
 ori-Ø=wa an hito={ga/ba/ni} suk-a-n
 1-SG=TOP あの 人={NOM/ACC/DAT} 好く -THM-NEG
 「私はあの人が嫌いだ。」

「ほしい」を表す表現には、hosi-「ほしい」という語根が屈折形容詞化接辞-kar をとって屈折形容詞として実現したもの (hosika「ほしい」), 動詞化接辞-gar をとって動詞化したもの (hosigaru「ほしがる」) がある。動詞化したものは、6-9a の cf で示すように、話し手・聞き手以外が主語である場合に用いることができる。hosika のように屈折形容詞が述語である場合には、対象は主格あるいは対格で標示される。hosigaru のように動詞である場合には、対象は対格で標示される。6-b に示すように、「要る」を表す表現には、動詞 ir-「要る」がある。ir-「要る」が述語となると、感情を感じる主体は与格で、対象は主格で標示される。

6-9a 私は靴が欲しい。【感情 2】
 oryaa kutu{ga/ba/*ni} hosika.
 ori-Ø=wa kutu={ga/ba/ni} hosi-kar-Ø
 1-SG=TOP 靴={NOM/ACC/DAT} ほしい-ADJZ-NPST
 「私は靴がほしい。」

cf. 彼は靴を欲しがっている。【感情 2】
 aryaa kutu{*ga/ba/*ni} hosigattoru.
 ari-Ø=wa kutu={ga/ba/ni} hosi-gar-tor-ru
 あれ-SG=TOP 靴={NOM/ACC/DAT} ほしい-VLZ-PF-NPST
 「あいつは靴をほしがっている。」

6-9b 今、彼にはお金が要る。【感情 2】
 an hito(ni)wa zenno iru.
 an hito(=ni)=wa zen=no ir-ru
 あの 人(=DAT)=TOP お金=NOM 要る-NPST
 「あの人にはお金が要る。」

ogor-「怒る」が述語であるとき、対象は対格もしくは与格で標示される(6-10a)。ただし、6-10a のように対象がイベントである場合には、cf に示すようにそのイベントを理由節に埋め込む構造の方がより自然であるという話者の内省がある。6-10b のように、esuka「怖い」が述語である場合、対象の格標示は個人差が見られる。すべての話者に共通するのは、主格標示を許容することである。与格標示は HT 氏は許容するものの、YK 氏、IF 氏は許容しない。対格標示に関しては、HT 氏、YK 氏は許容するものの、IF 氏は許容しない⁸。

⁸ 心情形容詞文の対象が主格以外の格 (対格, 与格) で標示される現象は、日琉諸語で広く見られる。詳細は、松岡 (2020) および松岡 (2024a: § 20) を参照されたい。

6-10a (私の)母は(私の)弟がうそをついたのに怒っている. 【感情3】

kaatyanna ootoga suragotu yuutatu{ba/ni} ogoriyorasu.
 kaatyan-Ø=wa ootoo=ga suragotu yuw-ta=tu={ba/ni} ogor-i-yor-rass-ru
 お母さん-SG=TOP 弟=NOM うそ 言う-PST=FMN={ACC/DAT} 怒る-THM-PROG-HON-NPST
 「お母さんは弟が嘘をついたことに怒っている。」

cf. kaatyanna ootoga suragotu yuutaken ogoriyorasu.
 kaatyan-Ø=wa ootoo=ga suragotu yuw-ta=ken ogor-i-yor-rass-ru
 お母さん-SG=TOP 弟=NOM うそ 言う-PST=FMN=CSL 怒る-THM-PROG-HON-NPST
 「お母さんは弟が嘘をついたから怒っている。」

6-10b 彼は犬が怖い. 【感情3】

aryaa in{no/ba/ni} esuka.
 ari-Ø=wa in={no/ba/ni} esu-kar-Ø
 あれ-SG=TOP 犬={NOM/ACC/DAT} 怖い-ADJZ-NPST
 「あいつは犬が怖い。」(HT氏)

aryaa in{no/ba/*ni} esukagena.
 ari-Ø=wa in={no/ba/ni} esu-kar-Ø=gena
 あれ-SG=TOP 犬={NOM/ACC/DAT} 怖い-ADJZ-NPST=HS
 「あいつは犬が怖いって。」(YK氏)

aryaa in{no/ba/ni} esuka.
 ari-Ø=wa in={no/ba/ni} esu-kar-Ø
 あれ-SG=TOP 犬={NOM/ACC/DAT} 怖い-ADJZ-NPST
 「あいつは犬が怖い。」(IF氏)

類似関係は, 動詞 ni-「似る」で表される(6-11a). 包含関係について, 6-12b に示すように hukum-「含む」という動詞を用いて表すことが可能である. ただし, 話者の内省によるとこの表現はやや不自然であり, cf に示す「海の水は塩辛い。」にあたる表現を用いる方が好まれる. 6-12b で hukum-「含む」を用いる構造が不自然であるのは, これが無生物主語他動詞文であるためである可能性がある. 他の無生物主語他動詞文について, 今後検証する必要がある.

6-11a 彼は父親に似ている. 【関係1】

an hitowa otoosan{ni/*san} nitorasu.
 an hito=wa otoosan={ni/san} ni-tor-rass-ru
 あの 人=TOP お父さん={DAT/ALL} 似る-PF-HON-NPST
 「あの人はお父さんに似ている。」

6-11b 海水は塩分を含んでいる。【関係 1】
 umino mizuwa sioba hukundoru.
 umi=no mizu=wa sio=ba hukum-tor-ru
 海=GEN 水=TOP 塩=ACC 含む-PF-NPST
 「海の水は塩を含んでいる。」

cf. umino mizuwa siokaraka.
 umi=no mizu=wa sio+kara-kar-Ø
 海=GEN 水=TOP 塩+辛い-ADJZ-NPST
 「海の水はしょっぱい。」

関係 2 のうち、状態は、名詞述語として、もしくは名詞と動詞 si-「する」を用いた構造で実現する(6-12a).
 変化は、nar-「なる」を用いて表される(6-12b).

6-12a 私の弟は医者だ。【関係 2】
 origa ootowa {isya / isayaba siyuru}.
 ori-Ø=ga ootoo=wa {isya / isya=ba si-yor-ru}
 1-SG=GEN 弟=TOP {医者 / 医者=ACC する-PROG-NPST}
 「私の弟は {医者だ / 医者をしている}。」

6-12b 私の弟は医者になった。【関係 2】
 origa ootowa isya{ni/*san} natta.
 ori-Ø=ga ootoo=wa isya={ni/san} nar-ta
 1-SG=GEN 弟=TOP 医者={DAT/ALL} なる-PST
 「私の弟は医者になった。」

動作を元にした可能表現では、可能を表す補助動詞 kir をとった形式が用いられる(6-13a, b)⁹. zyoozuka
 「上手だ」、hetaka 「下手だ」のような能力を表す形容詞が述語となる構造においては、行為を表す名詞
 が主格標示される(6-14a, b).

6-13a 彼は車の運転ができる。【能力 1】
 an hitowa kurumano unten{*ga/ba} si kirasu.
 an hito=wa kuruma=no unten={ga/ba} si kir-rass-ru
 あの 人=TOP 車=NOM 運転={NOM/ACC} する POT-HON-NPST
 「あの人は車の運転ができる。」

⁹ 柳川方言における可能表現の詳細については、松岡 (2024: 380-384) を参照されたい。

6-13b 彼は泳げる。【能力 1】

an hitowa oyokkirasu.
 an hito=wa oyog-kir-rass-ru
 あの 人=TOP 泳ぐ-POT-HON-NPST
 「あの人は泳げる。」

6-14a 彼は話をするのが上手だ。【能力 2】

an hitowa hanasi{no/*ba/*ni} zyoozuka.
 an hito=wa hanasi={no/ba/ni} zyoozu-kar-Ø
 あの 人=TOP 話={NOM/ACC/DAT} 上手-ADJZ-NPST
 「あの人は話が上手だ。」

6-14b 彼は話をするのが下手だ。【能力 2】

an hitowa hanasi{no/*ba/*ni} hetaka.
 an hito=wa hanasi={no/ba/ni} heta-kar-Ø
 あの 人=TOP 話={NOM/ACC/DAT} 下手-ADJZ-NPST
 「あの人は話が下手だ。」

移動の到着点について、6-15a では、着点は与格標示のみを許容する¹⁰。cf に示すように、ik-「行く」のような到着を含意しない動詞が述語である場合には、与格標示と対格標示の両方を許容する。移動の経路は、対格標示される(6-15b, c)。

6-15a 彼は学校に着いた。【移動】

an hitowa gakkoo{ni/*san} tuita.
 an hito=wa gakkoo={ni/san} tuk-ta
 あの 人=TOP 学校={DAT/ALL} 着く -PST
 「あの人は学校に着いた。」

cf 彼は学校に行った。【移動】

an hitowa gakkoo{ni/san} ita.
 an hito=wa gakkoo={ni/san} i-ta
 あの 人=TOP 学校={DAT/ALL} 行く -PST
 「あの人は学校に行った。」

¹⁰ ただし、同じく tuk-「着く」を述語とする「九時に家に着いて、テレビを見て、寝た。」の例では、話者は向格標示を許容している。この例で向格標示を許容し、6-15a で向格標示を許容しないのは、前者が移動とその後の停滞の両方に焦点を当てているのに対し、後者は移動後の停滞にのみ焦点を当てているためである可能性がある。南琉球宮古語伊良部島方言（下地 2016）では、「着点」にも移動のニュアンスが際立っているものとそうでないものがあり、移動のニュアンスが強い場合には向格を、そうでない場合には与格を選好することが指摘されている。柳川方言においてもこの点が格標示に影響を与えている可能性があり、検証する必要がある。

6-15b 彼は道を渡った／横切った。【移動】
 an hitowa mitiba watarasita.
 an hito=wa miti=ba water-rass-ta
 あの 人=TOP 道=ACC 渡る-HON-PST
 「あの人は道を渡った。」

6-15c 彼はこの道を通った。【移動】
 an hitowa kon mitiba totta.
 an hito=wa kon miti=ba toor-ta
 あの 人=TOP この 道=ACC 通る-PST
 「あの人はこの道を通った。」

感覚は、形容詞もしくは動詞で表される。形容詞（例：hidaruka 「ひもじい」、samuka 「寒い」）がムードを表す要素を伴わず述語となるのは、1人称、（疑問文で）2人称が主語である場合である(6-16aのcf, 6-17c)。3人称が主語となる場合には、形容詞に伝聞を表す=gena（松岡 2024a: §10.3.1.6）、推量を表す=gotaru といった要素が後続するか、動詞を用いる(6-16a, 6-16b)。

6-16a 彼はお腹を空かしている。【感覚 1】
 taroowa {hidaruse siyuru / haraba sukasetoru}.
 taroo-Ø=wa {hidaru-sa=i si-yor-ru / hara=ba suk-sase-tor-ru}
 太郎-SG=TOP {ひもじい-NMLZ=DAT LV-PROG-NPST / 腹=ACC 空く-CAUS-PF-NPST}
 「太郎は {ひもじそうにしている／お腹を空かせている}。」

cf. 私はお腹を空かしている。【感覚 1】
 oryaa hidaruka.
 ori-Ø=wa hidaru-kar-Ø
 1-SG=TOP ひもじい-ADJZ-NPST
 「私はひもじい。」

6-16b 彼は喉が渴いている。【感覚 1】
 taroowa nodon kawaitoru.
 taroo=wa nodo=n kawak-tor-ru
 太郎=TOP 喉=NOM 乾く-PF-NPST
 「太郎は喉が渴いている。」

6-17a 私は寒い。【感覚 1】
 oryaa samuka.
 ori-Ø=wa samu-kar-Ø
 1-SG=TOP 寒い-ADJZ-NPST
 「私は寒い。」

6-17b 今日は寒い. 【感覚 1】

kyoowa samuka.
 kyoo=wa samu-kar-Ø
 今日=TOP 寒い-ADJZ-NPST
 「今日は寒い。」

社会的相互行為のうち, *tetudaw*-「手伝う」においては対象の名詞句が与格標示される. *tasuke*-「助ける」においては対象が与格標示・対格標示される(6-18a). 節を対象としてとる場合には, *tetudaw*-「手伝う」の対象が対格標示を許容することを確認している(6-18b). 同じ環境で与格標示が許容されるか, また, *tasuke*-「助ける」が述語である場合に対象となる節がどのような格標示をとるかは未調査である.

6-18a 私は彼を手伝った／助けた. 【社会的相互行為 1】

oryaa taroo{ni/*ba} tetudoota.
 ori-Ø=wa taroo-Ø={ni/ba} tetudaw-ta
 1-SG=TOP 太郎-SG={DAT/ACC} 手伝う-PST
 「私は太郎を手伝った。」

oryaa taroo{ni/ba} tasuketa.
 ori-Ø=wa taroo-Ø={ni/ba} tasuke-ta
 1-SG=TOP 太郎-SG={DAT/ACC} 助ける-PST
 「私は太郎を助けた。」

6-18b 私は彼がそれを運ぶのを手伝った. 【社会的相互行為 1】

oryaa tarooga nitmotu hakobutoba tetudoota.
 ori-Ø=wa taroo-Ø=ga nimotu hakob-ru=to=ba tetudaw-ta
 1-SG=TOP 太郎-SG=NOM 荷物 運ぶ-NPST=FMN=ACC 手伝う-PST
 「私は太郎が荷物を運ぶのを手伝った。」

彼に質問する, という意味合いでは, 聞かれる側である *taroo* は与格標示される. 彼から伝えられる, という意味合いでは, *taroo* は奪格標示される.

6-19a 私はその理由を彼に聞いた. 【社会的相互行為 2】

oryaa son riyuuba taroo{ni/kara} kiita
 ori-Ø=wa son riyuu=ba taroo-Ø={ni/kara} kik-ta
 1-SG=TOP その 理由=ACC 太郎-SG={DAT/ABL} 聞く-PST

6-19b 私はそのことを彼に話した. 【社会的相互行為 2】

oryaa son kotuba taroo{ni/*san} haneeta
 ori-Ø=wa son kotu=ba taroo-Ø={ni/san} hanas-ta
 1-SG=TOP その こと=ACC 太郎-SG={DAT/ALL} 話す-PST

「会う」のような動詞の対象は, 共格もしくは与格で標示される.

6-20a 私は彼と会った。【再帰・相互】
 oryaa taroo{to/ni/*san} oota.
 ori-Ø=wa taroo={to/ni/san} aw-ta
 1-SG=TOP 太郎={COM/DAT/*ALL} 会う-PST}

5. 情報構造と名詞述語文（語研論集第21号）

本節では、情報構造と名詞述語文についてデータを提供する。焦点位置が主語位置であるとき、対比焦点(8-1)、WH焦点、WH応答焦点(8-2)ともに、主語は主格で標示される。8-1の対比焦点、8-2のWH応答焦点においては、擬似分裂文も用いられることを確認している¹¹。

8-1 えっ、A（固有名詞）が来たの？
 mezurassa! tarooga kitatukan.
 mezurasi-sa taroo-Ø=ga ki-ta=tu=kan
 珍しい-NMLZ 太郎-SG=NOM 来る-PST=FMN=Q
 「珍しいこと！太郎が来たの？」

いや、AじゃなくてBが来たんだ。【対比焦点（主語）】

nnya zirooga kitatuban.
 nnya ziroo-Ø=ga ki-ta=tu=ban
 いや 次郎-SG=NOM 来る-PST=FMN=SFP
 「いや、次郎が来たんだよ。」

nnya {zirooban / ziroogaban}.
 nnya {ziroo-Ø=ban / ziroo-Ø=ga=ban}
 いや {次郎-SG=SFP / 次郎-SG=NOM=SFP}
 「いや、次郎だよ。」

8-2 誰が来たの？【WH焦点（主語）】

dariga kitakan.
 dari=ga ki-ta=kan
 誰=NOM 来る-PST=Q
 「誰が来たの？」

¹¹ 擬似分裂文の述語には、名詞句が立つ場合と、名詞句に格助詞が後続したものが立つ場合がある。両者の意味的な違いは、その有無も含め不明である。ただし、両者は常に交換可能ではなく、「誰がいるの？」に対する応答である「太郎だよ。」については名詞句が立ち（tarootai.「太郎だよ。」）、名詞句に格助詞が後続したものは立たない（*tarooatai.「太郎だよ。」）ことを確認している（松岡 2024a: 331）。柳川方言における擬似分裂文の詳細については、松岡（2024a: § 14.5.2）を参照されたい。

太郎が来たよ. 【WH 応答焦点 (主語)】

tarooga kitatan.
 taroo-Ø=ga ki-ta=tan
 太郎-SG=NOM 来る-PST=SFP
 「太郎が来たよ。」

(tarootan / taroogatan).
 {taroo-Ø=tan / taroo-Ø=ga=tan}
 {太郎-SG=SFP / 太郎-SG=NOM=SFP}
 「太郎だよ。」

形容詞述語である場合も同様に, 主語は主格で標示される(8-3). 8-3 の太郎と花子を比較する文脈では, 形式名詞 hoo (松岡 2024a: §13.2.1.14) が比較を表す.

8-3 太郎のほうが大きいんじゃないの? 【YesNo疑問】

tarooga hutokazzya naka.
 taroo-Ø=ga huto-kar-Ø=zya na-kar-Ø
 太郎-SG=NOM 大きい-ADJZ-NPST=COP.SEQ ない-ADJZ-NPST
 「太郎が大きいんじゃない?」

いや, 太郎じゃなくて花子のほうが大きいんだよ. 【形容詞述語応答焦点】

nnya taroozya naka.
 nnya taroo-Ø=zya na-kar-Ø
 いや 太郎-SG=COP.SEQ ない-ADJZ-NPST
 「いや, 太郎じゃない。」

{hanakoga / hanakono hooga} hutokatan.
 {hanako-Ø=ga / hanako-Ø=no hoo=ga} huto-kar-Ø=tan
 {花子-SG=NOM / 花子-SG=GEN ほう-NOM} 大きい-ADJZ-NPST=SFP
 「花子 (のほう) が大きいよ。」

文焦点でも同様に, 主語は主格で標示される(8-4). 述語は, 日本語標準語のノダ文に相当する形式(「来たんだ」) korasitatutan と, ノダ文に相当しない形式 korasitatan の両方が用いられる.

8-4 (電話で) どうしたの? —うん, 今, お客さんが来たんだ. 【文焦点 (自動詞文)】

okyakusanno {korasitatan / korasitattan}.
 o-kyaku-san=no {ko-rass-ta=tan / ko-rass-ta=tu=tan}
 POL-客-HON=NOM {来る-HON-PST=SFP / 来る-HON-PST=FMN=SFP}
 「お客さんが来たよ。」

目的語に対比焦点がある場合であっても, 目的語は特別な形式をとらない. 述語については, ノダ文に相当する形式をとる.

8-5 あの子どもが A を叩いたんだって!?

an kodomoga tarooba kurasetatukan.
 an kodomo=ga taroo-Ø=ba kurase-ta=tu=kan
 あの 子ども=NOM 太郎-SG=ACC 殴る-PST=FMN=Q
 「あの子どもが太郎を殴ったの？」

いや、A じゃなくて、B を叩いたんだよ。【対比焦点（目的語）】

nnya zirooba kurasetatutan.
 nnya ziroo-Ø=ba kurase-ta=tu=tan
 いや 次郎-SG=ACC 叩く-PST=FMN=SFP
 「いや、次郎を叩いたんだよ。」

対比的な疑問語は, *dotti* (松岡 2024a: §12.2.3) である。対比的な疑問語の応答は, 8-3 と同様に形式名詞 *hoo* を用いた応答も可能である。

8-6 赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買うの? 【対比的疑問語「どっち」】

aoka hukuroto akka hukuroto dottiba kauan.
 ao-kar-Ø hukuro=to aka-kar-Ø hukuro=to dottiba kaw-ru=kan
 青い-ADJZ-NPST 袋=COM 赤い-ADJZ-NPST 袋=COM どちら=ACC 買う-NPST=Q
 「青い袋と赤い袋と、どっちを買うの？」

(私は) 青い袋を買うよ。【対比焦点（目的語）】

{aoka hooba / aokatuba} moraooka.
 {ao-kar-Ø hoo=ba / ao-kar-Ø=tu=ba} moraw-a-u=ka
 「{青いほうを/青いのを} もらおうか。」

述語焦点では、焦点を表す特別な形式は出現しない(8-7).

8-7 太郎はどこですか?

taroowa dokoni orukan.
 taroo-Ø=wa doko=ni or-ru=kan
 太郎-SG=TOP どこ=DAT いる-NPST=Q
 「太郎はどこにいるの？」

太郎は朝からどっかへでかけたよ。【述語焦点】

taroowa dokosanka itatan.
 taroo-Ø=wa doko=san=ka i-ta=tan
 太郎-SG=TOP どこ=ALL=INDF 行く-PST=SFP
 「太郎はどっか行ったよ。」

目的語に WH 焦点, WH 応答焦点が当たっている場合, 目的語には焦点を表す形式は出現しない。

8-8 (あの子供は) 誰をたたいたの? 【WH 焦点 (目的語)】

dariba tatetatkan.
dari=ba tatak-ta=tu=kan
誰=ACC 叩く -PST=FMN=Q
「誰を叩いたの?」

(あの子供は) 自分の弟をたたいたんだ. 【WH 応答焦点 (目的語)】

otootoba tatetatta.
otooto=ba tatak-ta=tu=ta
弟=ACC 叩く -PST=FMN=SNP
「弟を叩いたんだ。」

他動詞文の文焦点について、主語は主格で、目的語は対格で標示されうることを確認している¹².

8-9 (電話で) どうしたの?

dogen sitakan.
do-gen si-ta=kan
どう-ADVZ する -PST=Q
「どうしたの?」

うん、太郎が (自分の) 弟をたたいたんだ. 【文焦点 (他動詞文)】

taroo ga otootoba tatetatta.
taroo-Ø=ga otooto=ba tatak-ta=tu=ta
太郎-SG=NOM 弟=ACC 叩く -PST=FMN=SNP
「太郎が弟を叩いたんだ。」

目的語が主題である場合には、目的語は文頭に現れ、主題標示される。

8-10 あのケーキ、どうした? 【目的語主題化、主題 (目的語) の継続性】

an keekiwa dokosan yattakan.
an keeki=wa doko=san yar-ta=kan
あの ケーキ=TOP どこ=ALL よそに置く -PST=Q
「あのケーキはどこにやったの?」

¹² 九州方言と琉球語においては、文焦点の環境下であっても主語が主題標示されるという現象が指摘されている(廣澤ほか to appear, 廣澤 2025). 文焦点の環境下で主語が主題標示されるのは、概して、主語が文脈に既出であり、存在 (presentational) ではなく出来事を表す (event-reporting) 文である場合である。柳川方言においても、8-9 の例において太郎が文脈に既出である場合には主題標示を許容する可能性があるが、未確認である。8-19 の例も合わせて参照されたい。

(ああ, あれは) 太郎が食べちゃったよ.
 aa hanakoga tabessimootatan.
 aa hanako-Ø=ga tabe-te simaw-ta=tan
 ああ 花子-SG=NOM 食べる-SEQ PF-PST=SFP
 「ああ, 花子が食べちゃったよ。」

分裂文について, 前提部分が形式名詞=tu とともに連体節を成し, これが主題助詞で標示される. 焦点部分は述語となる.

8-11 私がきのうお店から買ってきたのはこの本だ. 【分裂文】
 origa kinoo koote kitatuwa kono hontan.
 ori-Ø=ga kinoo kaw-te ki-ta=tu=wa kono hon=tan
 1-SG=NOM きのう 買う-SEQ ENDO-PST=FMN=TOP この 本=SFP
 「私がきのう買ってきたのはこの本です。」

措定文(8-12), 倒置同定文(8-13), 同定文(8-14)では, いずれもコピュラは出現しない. これは, 柳川方言においてはコピュラの非過去形は接続助詞=ken, 終助詞=mon など一部の助詞が後続する場合にのみ出現するためである (松岡 2024a: 154). 措定文(8-12), 倒置同定文(8-13)では主語が主題標示されるのに対し, 同定文(8-14)では主語が主格標示される.

8-12 あの人は先生だ. この学校でもう 20 年働いている. 【措定文 主題 (主語) の継続性】
 an hitowa senseeban. moo nizyuunen tutometonaharu.
 an hito=wa sensee=ban moo ni+zyuu-nen tutome-tor-i-nahar-ru
 あの 人=TOP 先生=SFP もう 2(NUM)+10(NUM)-CLF 勤める-PF-THM-HON-NPST
 「あの人は先生だ. もう 20 年勤めていらっしゃる。」

8-13 花子のお父さんは, あの人だ. 【倒置同定文】
 hanakono otoosanna an hitotai.
 hanako-Ø=no otoosan-Ø=wa an hito=tai
 花子-SG=GEN お父さん-SG=TOP あの 人=SFP
 「花子のお父さんはあの人だよ。」

8-14 あの人が花子のお父さんだ. 【同定文】
 an hitoga taroono otoosantai.
 an hito=ga taroo-Ø=no otoosan=tai
 あの 人=NOM 太郎-SG=GEN お父さん=SFP
 「あの人が太郎のお父さんだよ。」

定義文において, 主題部分は引用助詞=ti (松岡 2024a: §16.2.3) と主題助詞=wa, もしくは「～と言うのは」にあたる引用助詞=ti, 動詞 yuu 「言う」, 形式名詞=to, 主題助詞=wa から成るまとまりによって標示される.

8-15 あさってってというのはね, 明日の次の日のことだよ. 【定義文】

{asattetiwa / asatteti yuutowa} tugino tugino hitai.
 {asatte=ti=wa / asatte=ti yuw-ru=to=wa} tugi=no tugi=no hi=tai
 {あさって=QUOT=TOP / あさって=QUOT 言う-NPST=FMN=TOP} 次=GEN 次=GEN 日=SFP
 「{あさってとは/あさってってというのは} 次の次の日だよ。」

いわゆるウナギ文(8-16), 逆行ウナギ文(8-17)の構造を用いることが可能である. ウナギ文については, 終助詞を用いない方が自然であるのに対し, 逆行ウナギ文においては終助詞=tai を用いる方が自然である.

8-16 (何人かが入ったカフェで注文を聞かれて) 私はコーヒーだ. 【ウナギ文】

oriwa koohii.
 ori-Ø=wa koohii
 1-SG=TOP コーヒー
 「私はコーヒー。」

8-17 [(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか?との問いに] コーヒーは私だ. 【逆行ウナギ文】

koohiiwa oritan.
 koohii=wa ori-Ø=tan
 コーヒー=TOP 1-SG=SFP
 「コーヒーは私です。」

形容詞に相当する要素が同じ名詞を修飾する場合には, 前に立つ形式が連用形に相当する形式をとる一括修飾型が用いられる. 累積修飾型も可能ではあるものの, 一括修飾型がより自然であるという話者の内省があるため, 以下には一括修飾型の例のみを示す.

8-18 その新しくて厚い本は(値段が)高い. 【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

son atarasyuu site atuka honna takka.
 son atarasi-u si-te atu-kar-Ø hon=wa taka-kar-Ø
 その 新しい-ADVZ LV-SEQ 厚い-ADJZ-NPST 本=TOP 高い-ADJZ-NPST
 「その新しくて厚い本は高い。」

意外性を表す 8-19 の例において, 述語は非過去形をとる. 主語について, 砂糖の話が文脈に導入されている場合(例:「砂糖ってまだあるよね?」と尋ねられ, 「あるはずだよ。」と言いつつ念のため確認するとき)には主題標示が用いられ, そのような文脈がない場合には主格標示が用いられる. 注 12 も合わせて参照されたい. 思い出しを表す 8-20 の例においては, 述語は過去形をとる.

8-19 (砂糖入れを開けて) あっ, 砂糖が無くなっているよ! 【意外性 (mirativity)】

ara satoo{n/wa} naka.
 ara satoo={n/wa} na-kar-Ø
 あら 砂糖={NOM/TOP} ない-ADJZ-NPST
 「あら, 砂糖がない!」

8-20 午後, 誰かに会うはずだったなあ. 誰だったっけ? あっ, そうだ, 太郎君だったな.

【思い出し】

aa kyoowa dareka awayanyattabattenna. darizyattakane.
 aa kyoo=wa dare=ka aw-a-yan=yar-ta=batten=na dari=zyar-ta=ka=ne
 ああ 今日=TOP 誰=INDF 会う-THM-OBL=COP-PST=ADVRS=SFP 誰=COP-PST=Q=SFP

aa sogenyatta matuokasanyatta.
 aa so-gen=yar-ta matuoka-san=yar-ta
 ああ MED-ADVZ=COP-PST 松岡-HON=COP-PST

「ああ, 今日は誰かに会わないといけなかったんだけどな. 誰だったっけ. ああ, そうだった, 松岡さんだった。」

6. 情報構造の諸要素 (語研論集第 22 号)

本節では, 情報構造の諸要素についてデータを提供する. 9-1 の例文の前半, 9-2 の例文では, 二重主語文が用いられる. 二重主語文が用いられるのは第一項と第二項が広義の所有関係にある場合である. 第一項は, 主題であれば主題助詞=wa で, 非主題であれば主格助詞=ga もしくは=no で標示される. 第二項は, 主格助詞=ga もしくは=no で標示される.

9-1 この土地は野菜がよく育つ. だから高い値段で売れるだろう.

【主題卓越型類型論の軸項: 統語的に動詞の必須項ではない名詞】

kokowa yasaimonno yoo sodatumon.
 koko=wa yasaimon=no yo-u sodat-ru=mon
 ここ=TOP 野菜=NOM 良い-ADV LZ 育つ-NPST=SFP

soriken tako ururuyaroo.
 sori=ken taka-u uru-ru=yar-a-u
 それ=CSL 高い-ADV LZ 売れる-NPST=COP-THM-INFR

「ここは野菜がよく育つよ. だから高く売れるだろう。」

9-2 私は頭が痛い. だから今日は休む.

【主題卓越型類型論の軸項: 話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外】

oriwa ataman itaka. soriken kyoowa moo yokotokubai.
 ori=wa atama=n ita-kar-Ø sori=ken kyoo=wa moo yokow-tok-ru=bai.
 1SG=TOP 頭=NOM 痛い-NPST それ=CSL 今日=TOP もう 休む-ANT.PF-NPST=SFP

「私は頭が痛い. だから今日はもう休んでおくよ。」

とりたて表現について, 限定を表すとりたて助詞には=dake (松岡 2024a: §10.1.6), =sika (松岡 2024a: §10.1.7), =bakkai (松岡 2024a: §10.1.9) がある. 9-3 の例文では, 限定を示すのに=dake が用いられる. 9-4 の例文では, 限定を示すのに=sika が用いられる. sika は否定極性項目であり, 否定文にのみ出現する. 9-5 の例文では, =dake もしくは=bakkai が用いられる.

9-3 あの人だけ, 時間通りに来た. 【とりたて: 限定】
 an hito{dake/*sika/*bakkai} zikandoori kitayo.
 an hito={dake/sika/bakkai} zikandoori ki-ta=yo
 あの 人=ONLY 時間通り 来る-PST=SNP
 「あの人だけ時間通り来たよ。」

9-4 これはここでしか買えない. 【とりたて: 限定・否定との共起】
 korya kokode{sika/*dake/*bakkai} kawarenyo.
 kore=wa koko=de={sika/*dake/*bakkai} kaw-rare-n=yo
 これ=TOP ここ=LOC=ONLY 買う-POT-NEG=SNP
 「これはここでしか買えないよ。」

9-5 その家にいたのは子供ばかりだった. 【とりたて: 限定・多数】
 soke ottatuwa kodon{bakkai/dake/*sika}yatta.
 soko=i or-ta=tu=wa kodon={bakkai/dake/*sika}=yar-ta
 そこ=DAT いる-PST=FMN=TOP 子ども=ONLY=COP-PST
 「そこにいたのは子供ばかりだった。」

9-6 の例文では, koso が用いられる.

9-6 次回こそ, 失敗ないようにしよう. 【とりたて: 限定・強調】
 tugikoso sippai sengoto siyoo.
 tugi=koso sippai se-n=goto si-yoo
 次=FOC 失敗 する-NEG=FMN する-INT
 「次こそ失敗ないようにしよう。」

9-7 の例文では, 例示を表す=natton (松岡 2024a: §10.1.5.4) もしくは=don (松岡 2024a: §10.1.5.3) が用いられる. 例示を表す助詞の種類およびその機能差については, 松岡 (2024a: 193-196) を参照されたい.

9-7 疲れたね, お茶でも飲もう. 【とりたて: 反限定・例示】
 aa kutabureta. otya{natton/don/*den/*yara} nomooka.
 aa kutabure-ta o-tya={natton/don/*den/*yara} nom-a-u=ka
 ああ くたびれる-PST POL-茶=EXM 飲む-THM-INT=Q
 「ああ, くたびれた. お茶でも飲もうか。」

極端を表す場合には, 9-8 のように取り立て助詞=sae, =den (松岡 2024a: §10.1.5.2) を用いる.

- 9-8 水さえあれば、数日間は大丈夫だ。【とりたて：極端】
 mizu{sae/den} annara ittoki yokayo.
 mizu={sae/den} ar-ru=nara ittoki yo-kar-Ø=yo.
 水=ONLY ある-NPST=COND しばらく 良い-ADJZ-NPST=SFP
 「水さえあったら、しばらく良いよ。」

9-9 の例文では、限界を表す=made, もしくは例示を表す=den, 譲歩を表す=dettya (松岡 2024a: 10.1.4) が用いられる。

- 9-9 小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。【とりたて：極端・意外】
 komaka kodon{made/den/dettya/*don/*natton} tukawareyotta.
 koma-kar-Ø kodon={made/den/dettya/*don/*natton} tukaw-rare-yot-ta.
 小さい-ADJZ-NPST 子ども=LIM 手伝わせる-PASS-HAB-PST
 「小さい子供まで、手伝わされていた。」

9-10 の例文では、否定的な例示を表す=yara (松岡 2024a: §10.1.5.6) もしくは=den が用いられる¹³。

- 9-10 私はお金なんか欲しくない。【とりたて：反極端・低評価】
 orya zen{yara/den/*dettya} iran.
 ori-Ø=wa zen={yara/den/*dettya} ir-a-n
 1-SG=NOM お金=EXM 要る-THM-NEG
 「私はお金なんか要らない。」

9-11 の例文では、程度を表す=guree (松岡 2024a: §10.1.8) が用いられる。

- 9-11 自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。【とりたて：反極端・最低限】
 waga heyaguree wagade katatukenne.
 waga heya=guree waga=de katatuke-n=ne
 REF 部屋=DEG REF=INST 片付ける-NEG=SFP
 「自分の部屋ぐらい自分で片付けなさい。」

9-12 の例文では、累加を表す=mo (松岡 2024a: 10.1.3) が用いられる。

- 9-12 私にもちょうだい。【とりたて：類似・累加】
 orinimo haiyoo.
 ori-Ø=ni=mo haiyoo
 1-SG=DAT=ADD ちょうだい
 「私にもちょうだい。」

¹³ 福岡県福岡市方言をはじめ九州方言の一部では伝聞を表す gena が否定的な例示を表す場合に用いられるが (二階堂 2008, 松尾 2009), 本稿の調査に協力している話者はこれを許容しない。

9-13 の例文では、主題を表す=wa（形態音韻交替によって na として実現）が現れる。

- 9-13 お父さんもう帰って来たね。お母さんは？【とりたて：反類似・対比（疑問）】
 otoosanna moo kaette kita. okaasanna?
 otoosan-Ø=wa moo kaer-te ki-ta. okaasan-Ø=wa
 お父さん-SG=TOP もう 帰る-SEQ 来る-PST お母さん-SG=TOP
 「お父さんはもう帰ってきた。お母さんは？」

9-14, 15, 16, 17 のいずれの例でも、不定語を形成するのに=ka もしくは=zyai（松岡 2024a: §12.2）が用いられる。

- 9-14 誰か（が）電話してきたよ。【不定：特定未知】
 dari{ka/zyai} denwa site kitaban.
 dari={ka/zyai} denwa si-te ki-ta=ban
 誰=INDF 電話 する-SEQ ENDO-PST=SFP
 「誰か電話してきたよ。」

- 9-15 誰かに聞いてみよう。【不定：非現実不特定】
 dari{ka/zyai}ni kiite myuuka.
 dari={ka/zyai}=ni kik-te mi-u=ka.
 誰=INDF=DAT 聞く-SEQ CNT.INT=Q
 「誰かに聞いてみようか。」

- 9-16 私のいない間に誰か来た？【不定：疑問】
 origa orantoki dari{ka/zyai} kitakan.
 ori-Ø=ga or-a-n=toki dari={ka/zyai} ki-ta=kan
 1-SG=NOM いる-THM-NEG=FMN 誰=INDF 来る-PST=Q
 「私がいないうちに誰か来た？」

- 9-17 誰か来たら、私に教えてください。【不定：条件節内】
 dari{ka/zyai} kitanara yuute kurenkan.
 dari={ka/zyai} ki-ta=nara yuw-te kure-n=kan
 誰=INDF 来る-PST=COND 言う-SEQ BEN.ENDO-NEG=Q
 「誰か来たら言ってください。」

間接（全部）否定(9-18)について、「今日は誰も来るとは思わない」のように主節で否定を表すのは不自然であるという話者の内省がある。9-18, 9-19 では、不定語を形成するのに例示助詞=den もしくは=mo が用いられる。

9-18 今日は誰も来るとは思わない。／今日は誰も来ないと思う。【不定：間接（全部）否定】

kyoowa {dadden / darimo} korassanti omou.
 kyoo=wa {dari=den / dari=mo} ko-rass-a-n=ti omow-ru
 今日=TOP {誰=EXM / 誰=INDF} 来る-HON-THM-NEG=QUOT 思う-NPST
 「今日は誰も来ないと思う。」

9-19 そこには今誰もいないよ。【不定：直接（全部）否定】

sokoniwa {dadden / darimo} orassanyo.
 soko=ni=wa {dari=den / dari=mo} or-ass-a-n=yo
 そこ=DAT=TOP {誰=EXM / 誰=INDF} いる-HON-THM-NEG=SFP
 「そこには誰もいないよ。」

9-20, 9-21 では、例示を表す=den もしくは譲歩を表す=dettya が用いられる。9-21 に示すように、「みんな」という意味を表す言葉を用いることも可能である。

9-20 （それは）誰でもできる。【不定：自由選択】

{dadden / daridettya} sii kiruyo.
 {dari=den / dari=dettya} si kir-ru=yo
 {誰=EXM / 誰=EXM} する POT-NPST=SFP
 「誰でもできるよ。」

9-21 そんなこと（は）、みんな知っているんじゃないか!? 【不定：自由選択を示す「みんな」】

sogenka kotsa {dadden / daridettya / sootee} sittoruyo.
 so-gen-kar-Ø kotu=a {dari=den / dari=dettya / sootee} sir-tor-u=yo
 それ-ADV LZ-NPST こと=TOP {誰=EXM / 誰=EXM / みんな} 知る-PF-NPST=SFP
 「そんなことは誰でも知っているよ。」

反語の場合、9-22 のように、=den もしくは=dettya が用いられる。

9-22 そんなもの、誰が買うんだよ!? 誰も買うわけじゃないか! 【不定：反語】

sogenkatsa dariga kaune.
 so-gen-kar-Ø=tu=wa dari=ga kaw-ru=ne
 それ-ADV LZ-ADJZ-NPST=FMN=TOP 誰=NOM 買う-NPST=SFP

 {dadden / darimo} kawanyo.
 {dari=den / dari=mo} kaw-a-n=yo
 {誰=EXM / 誰=INDF} 買う-THM-NEG=SFP
 「そんなのは、誰が買うか。誰も買わないよ。」

話し手と聞き手の縄張りに属す情報には=ne もしくは=no が(9-23)、話し手の縄張りに属し聞き手の縄張りには属さない情報には推量を表す=goto ar-と終助詞=ne もしくは=no が(9-24)、話し手と聞き手の双方の縄張りに属さない場合には伝聞を表す=gena に、終助詞=yo が用いられる。

9-23 君は英語がうまいね. 【なわ張り理論: 話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

antawa yanagawabenno nmaka{ne/no}.

anta-Ø=wa yanagawaben=no nma-kar-Ø={ne/no}

2-SG=TOP 柳川方言=NOM 上手-ADJZ-NPST=SFP

「あなたは柳川方言が上手だね。」

9-24 君は退屈そうだね. 【なわ張り理論: 話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

antawa himangotan{ne/no}.

anta-Ø=wa hima=n=goto=ar-ru={ne/no}

2-SG=TOP 暇=GEN=FMN=ある-NPST=SFP

「あなたは暇みたいだね。」

9-25 明日も寒いらしいよ. 【なわ張り理論: 話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

asitamo atukagenayo.

asita=mo atu-kar-Ø=gena=yo

明日=ADD 暑い-ADJZ-NPST=HS=SFP

「明日も暑いらしいよ。」

参考文献

- Matsuoka, Aoi. 2022. Yanagawa. In Shimoji, Michinori (ed.) *An Introduction to the Japonic Languages: Grammatical Sketches of Japanese Dialects and Ryukyuan Languages*. 261-292. Brill: Leiden.
- 日高水穂. 2006. 「文法化」小林隆 (編) 『方言の文法』 181-219. 東京: 岩波書店.
- 廣澤尚之. 2025. 「文焦点 (Thetic) 文における主題標示とその条件の再検討 : 宮崎県椎葉村尾前方言を中心に」 『日琉諸語の記述・保存研究』 3: 37-52.
- 廣澤尚之・松岡葵・下地理則. to appear. 「方言変異からみる「ハもガも使えない文」: 宮崎県椎葉尾前方言, 鹿児島串木野方言, 標準語の対照を通して」竹内史郎・下地理則・小西いずみ (編) 『日琉諸語における情報構造と文法現象』 東京: ひつじ書房.
- 井上博文. 1988. 「肥筑方言・豊日方言における動詞接頭辞の地域性」 『方言研究年報』 30: 63-80.
- 上村孝二. 1983. 「九州方言の概説」 飯農毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『九州地方の方言』 1-28. 東京: 国書刊行会.
- 松尾弘徳. 2009. 「新方言としてのとりたて詞ゲナの成立: 福岡方言における文法変化の一事例」 『語文研究』 107: 1-17.
- 松岡葵. 2020. 「日琉諸方言における心情述語文の格フレーム: 意味的結合価・意味役割・述語の品詞に着目して」 『日本語文法』 20(2): 158-174.
- 松岡葵. 2021. 「福岡県柳川市方言の文法概説」 九州大学, 修士論文.
- 松岡葵. 2024a. 「福岡県柳川市方言の記述研究」 九州大学, 博士論文.
- 松岡葵. 2024b. 「福岡県柳川市方言の受動表現」 『語学研究所論集』 28 (2023 年度号), Article 33.
- 松岡葵. 2024c. 「福岡県柳川市方言のAspect」 『語学研究所論集』 28 (2023 年度号), Article 34.
- 二階堂整. 2008. 「若年層に見る最近の福岡方言の動き」 山口幸洋博士の古希をお祝いする会 (編) 『方言研究の前衛: 山口幸洋博士古希記念論文集』 100-112. 富山: 桂書房.
- 下地理則. 2016. 「南琉球宮古伊良部長浜方言の方向格=nkai と与格=n」 『琉球諸語 記述文法』 2: 61-86.

執筆者連絡先 : oash7499@gmail.com

原稿受理 : 2025 年 10 月 8 日

刊行年月日 : 2026 年 3 月 31 日